

西多摩農業改良普及センターからのお知らせ

気象災害への対応について ～施設における雪害対策～

主任普及指導員 原島 浩一



近年、異常といえるような気象現象が多く発生しています。昨年は夏の高温が大きな社会問題となりましたが、夏季だけでなく冬季の気象災害に対しても備える必要があります。農業での気象災害は、2014年の大雪被害が記憶に新しく、各地で農業施設などに大きな被害が発生しました(図1)。積雪被害も事前事後の対策で被害を低減できます。今回、施設における雪害対策の事例をいくつか挙げますので、対策が十分できているかご検討ください。

【降雪前の対策】

雪の予報(特に大雪の予報)が出たら、降雪前にできるだけの対策を講じておきましょう。

- ①支柱の他、施設の屋根から側面の筋交い、施設内上部の補強材などを設置して補強を行う(図2)。また、その留め金具にゆるみがないか確認する。
- ②屋根被覆資材の表面に雪の滑落を妨げるような突出物がないかを事前に点検する。ハウスバンドや天井被覆はたるみがないようにしっかりと張り、防風ネットや外部遮光資材は忘れずに撤去する。
- ③かん水施設等は、管内の水を抜いて破裂を防ぐ。
- ④施設内に内部被覆(二重カーテン)がある場合はこれを開放し、暖房機やストーブなどで降雪前から可能な範囲で室温を高めておくことで天井に積もった雪の滑落を促す。
- ⑤雪解け水が滞水しないように排水溝を整備し、湿害に備える。
- ⑥過剰施肥で窒素が多いと作物が軟弱に生長し、低温害に遭いやすくなるので日ごろから適正施肥に心がける。

【降雪後の対策】

見回りは、雪が止んでから滑りにくい靴を履き、一人ではなく複数で行いましょう。

- ①除雪作業は、施設・ほ場の安全が確認された時点で行う。
- ②倒壊の恐れのあるハウスや畜舎などの施設、雪が積もった樹木の周辺、道路・ほ場付近の用水路、落差等がある場所には近づかない。
- ③電線が切れている場合があるので、よく確認すると共に、施設には電源を落としてから入室する。
- ④積雪が施設の肩部を超えると施設の側壁に圧力が大きく加わるのでなるべく早く除雪する。
- ⑤除雪・融雪作業で散水を行うと、雪が水を含み、その重量が予想外に増大して施設の倒壊を引き起こす可能性があるために行わない。
- ⑥施設屋根部に積雪があると果菜類では日照不足で草勢低下が懸念されるため、摘葉を控えるなどして草勢の確保に努める。
- ⑦施設屋根の融雪後、天候によっては葉や果実に日焼けを生じることがあるので温度管理に注意する必要があるが、急激な換気は行わないよう留意する。



図1 積雪による施設の倒壊(2014年)

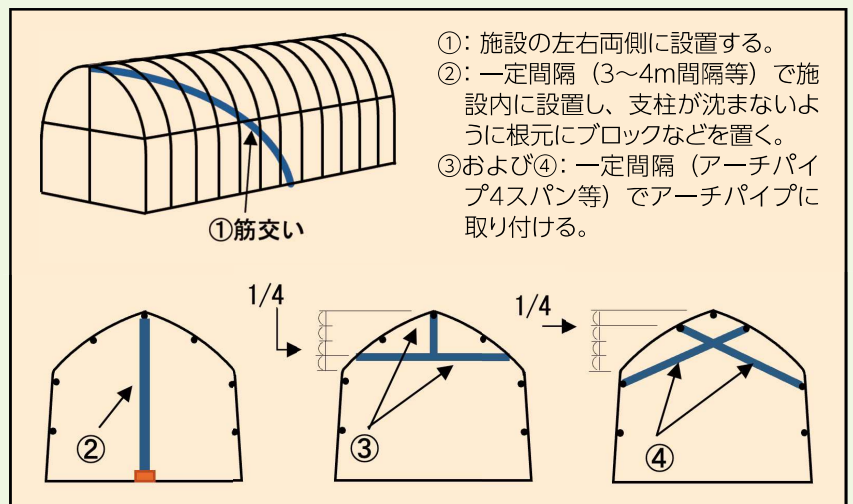


図2 施設の補強例